

昭和四年

機長會議附議希望事項

(艦隊機長會議希望事項)

機関長會議附議希望事項

第二艦隊司令部

海軍

第二艦隊司令部

(軍務局所掌)

一 工業員定員増加件

艦内工業能力、全能力發揮スルハ修理費ノ節約ニ至ラズ、有時際
極メ緊要ナル工業員(金具木工工業員共)不足、多ク艦内工業力
ヲ施行可能ノモモ工作片ニ請求スルノ由ナキ状況ニ在ルヲ以テ、
トモ左記範圍内ノ増員ヲ要ス

榛名級

現員ノ二割

青葉級

全 三割

鬼怒級

全 四割

駆逐艦並潜水艦

全 一割

海軍

第二艦隊司令部

(軍務局所掌)

二、艦隊司令部附ト多機関科特務士官一名増員ノ件
 艦隊ノ燃料、需品、清水等ニ関スル事務並帳簿ノ取扱上艦隊
 長ノ職務ノ執行セタ併ヒ幕僚事務補佐、多機関
 科特務士官一名増員スルヲ要ス

海軍 第二艦隊司令部

(軍務局所掌)

三、輕巡、驅逐艦航行ノタルビニ力量満スル件

輕巡驅逐艦在リテハ平素燃料ノ節約上航行タルビニ以テ甚ク
トモ強速ニ進歩揮ヒタルヲ要ス、然ルニ現在五戰隊ノ強速航行ヲ
ルビニ力量ノ關係上十六節トナルモ兵折上十八節ノ要求アリ
又ニ水戰ノ強速ハ十八節トナルヲ以テ輕巡、驅逐艦ノ編隊航行時強
速進歩揮ヒタルビニ力量ハ何レモ單艦ニテ軍需品滿載上
二十節ヲ確實ニ進歩揮ヒ得ル程度ニモタルヲ要ス

海軍

第二艦隊司令部

(軍務局所掌)

四.入渠ニ関スル件

艦底ノ常ニ清淨ニ保持スル燃料ノ節約、速力ノ維持並艦体ノ保存上必要ナルモナラズ艦隊ノ諸訓練作業上大ニ影響アルハ周知ノ問題ナラシテ艦隊所屬ノ艦艇ハ數トモ左記ニ依リ入渠セシムルヲ要ス

記

輕巡以下

年二回

巡戦以上

年一回

但シ「ベタジアル」塗料ノ用フルヲ要ス

海軍
第二艦隊司令部

(軍務局所掌)

五、主力艦艙室用昇降機、件

榛名改裝、際重油専焼缶室裝備、昇降機ヲ撤去セルガ
極メテ不便ニシテ平時豫備品及需品、運搬並戰時負傷
者運搬等、タメ是非必要ナル付爾後改裝セルベキ主力艦於
テハ之ヲ存置セシムルヲ要ス

第二艦隊

第十八潜水隊

題外

希望附議事項

（2）
機關機体並ニ電気兵装ノ改造新設ニ對スル
訓令並ニ通牒ノ馬一通當該艦艇ニ送付
スル様希望ス

2960

海軍

昭和四年

機關長會議附議希望事項
(軍務局所掌)

横須賀鎮守府

昭和四年機關長會議附議希望事項

軍務局所掌

一、船舶職員、職務規定第二章第九十三條ノ改正

現規定

船長ハ機集ノ現状カ其ノ發生力量ノ制限又鑊使用石力ノ増減ヲ必要ト認ム時ハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ施行シ海軍大臣ニ報告スヘシ

改正案

船長ハ機集ノ現状カ其ノ發生力量ノ制限或ハ鑊使用石力ノ増減ヲ必要ト認ム時ハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ施行シ海軍大臣並所屬長官ニ報告スヘシ又訓令ニ依リ機集ノ發生力量ヲ制限或ハ鑊使用石力ノ増減ヲ施行シタル時ハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

海軍

理由

前記ノ制限或ハ増減ヲナシタル場合所管長官ニ報告ナキ
 時ハ所管長官及梯隊ノ修理改修ニ直接関係アル所管
 鎮守府工廠長ノ職責遂行上不都合ナリ艀艀現狀報
 告等ニテ之ヲ知ント雖モ相当期間ヲ經タル後ニテ不便ナル
 こと多シ

二軍艦鳳翔電機部ノ定員ハ現定員以外ニ常備電機兵
 五名(電機兵三名)増加ノ必要アルモノト認ム

軍艦鳳翔電機部ノ現定員ハ制定當時其ノ主要兵器
 名安定機ニ升スルモノヲ考慮セラレサリシニ依ルガ如ク
 昭和二年一度迄ハ現定員三名ノ外ニ臨時増置員トシテ
 発電機員七名ノ増員アリタリ然ルニ其ノ后之カ増置員ヲ
 廃セラレタリ而シテ安定機ノ使用繁激トナリ使用は官ニ著
 シク延長シ尚爆弾電動機及飛行甲板照明装置ノ
 新設並前後部飛行機昇降用電動機ノ力量増加
 等ニ従フシテ工事ニ進捗シツクアル実状ナリ以テ目下
 愈々定員不足ヲ痛感シ居ル次第ナリ依テ此ノ際前
 記常備電機兵五名ノ定員増加ヲ要スルモノト認ム

三、船形部隊に於て使用スル起重機、鉄較輓等、試験検査及取扱規則ノ制定ヲ要ス

機力に依り運転スル起重機、試験検査及取扱規則ノ制定(諸例則巻二七九〇頁)アルモ人カヲ作動スル起重機及鉄較輓等ニ対シテハ何等ノ力検査ノ規定ナシ永年使用ノモノニハ特ニ過重荷力度ノ減耗ヲ示シ作業安全施上危険ヲ伴フコトアルヲ以テ前記規定ヲ設ケ定期ノ検査ヲナス要アルモノト認ム

附議希望事項(追加)

吳鎮守府

(美濃野紙乙)

一、現行豫備艦船規則中、英一、英二豫備艦ニテ、ハ極力船体兵器機関ノ保存整備ニ勉メシムル條項ヲ追加スルコト

理由、目下各國共各艦種ニ對シ漸次艦齡延長セシトスル傾向ヲ有スルヲ以テ將來ハ艦ノ保存年入ノ問題ハ益々重大ナル問題トナルヘシ然ルニ現行豫備艦船規則中ニハ是工品其ノ他ノ危險物等後揚運納等ニ關シテハ詳細ノ指示アルモ船体兵器機関ノ保存整備ニ關スル指示毫無ナキニツキ

二、下甲板艦中電動機復ノ判定

數艦中下甲板艦中ニ電動機ハ凡テ半開鎖式ニシテ毛布其ノ他ノ塵埃ノ侵入甚ダシク爲ニ絶緣

海軍

害スルベシトナス午入ニ非常ナル午数ヲ要スルヲ以テ
帆布製覆フ備フルカ或ハ全部閉鎖式ニ改造スルノ
要アルモノト認ム

三、兵員賄所ニ發電機停止後臭燈出来得ル様臭
燈装置ノ設備必要ト認ム

理由 豫備艦ニアリテハ燃料積算ノ關係上終夜
臭燈不可能ナルモ主計兵ハ其ノ任務ヲ遂行スル
前二時半ヨリ其ノ業務ヲ取掛フルヲ要シ一般臭
燈ハ総員起シ十五分前ナリ此ノ間冬季ニ於テハ
約三時間燭火ヲ臭シ極メテ薄暗ヤ照明ノ下
ニ約千人ノ賄作業ニ從事セサルヘカラズ然レモ現狀ナ
リ彼等ノ勞苦甚ニ衛生上ノ臭ヲ考慮シ燭火
火ニ代フルニ臭燈装置ヲ設ルヲ必要ト認ム而シ

(美濃野紙乙)

海軍

テ其ノ装備ニ就テハ次ノ如クモハ經費莫少ナクシテ
目的ヲ達スヘント思考ス

(一) 所要燈數

戦艦型ニテニ個

(二) 燈ノ力及型式

一燈ニ射撃準照装置用ノ如キ

小型電球ヲニヶ又ハ三ヶヲ附シ

自動車ノヘッドライトノ如ク反射

鏡ヲ附シ照明ヲ大ニスルコト

(三) 電 源

特ニ二次電池ノ増設不可能ナ

ル時ハ機関科通信用小型二次

電池ヨリ直線スルコト

(四) 所要接断器

二次電池室又ハ艀所ハ付近ニ

小型ノモノ一ヶ又ハ二ヶヲ設クルコト

(五) 本電燈ノ發電機及燈中ニ一切使用ヲ集ムル

モノトス

四、一萬噸巡洋艦ニアリテハ工作料ヲ新設スルヲ要ス
 戦時海排ト作業艦内工作ニ當リ機関長又ハ補
 機分隊長カ其ノ指揮所ヲ離ルコトハ一萬噸級巡
 洋艦ニアリテハ困難ノ事ナリ

五、大正九年五月経豫算三三六號ニ依ル労働年當
 配布付豫算ノ内給與令受五十二條又受五十三條
 ニ依リ支給スル年當金ノ豫備艦ニ對スル額ヲ少クモ
 在役艦ト同額トナスコト

理由、船体機関ノ定例検査施行ニ伴ヒ現下豫
 備艦船ニ於テハ労働繁劇程度ハ却テ在役艦
 ノ上ニ出スルモノアリ特ニ人員ノ不足セル機関員ニ於
 テ然リトス然ルニ之ニ對スル年當金ノ配布額ハ

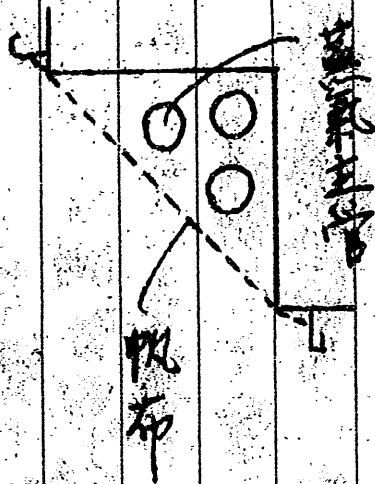
海軍

(美濃野紙乙)

在役艦ノ定員一人當リ一日七厘ノ寄シ豫備艦ニ
 於テハ僅ニ三厘ナリ故ニ減定員殊ニ十分ノ五定
 員タル莫三豫備艦ニ於テハ手當豫算額ハ在
 役艦ノ約五分ノ一ニ減シ到底給與令規定ノ手當
 支給ノ趣旨ニ添フコト能ハス減員ニ應スル豫算ノ
 減少ハ已ムヲ得ストスルモ豫備艦給仕費ノ現狀
 ニ照シ一人當リ金額ヲ在役艦ニ比シ半額以下
 トスルハ其ノ理由ヲ察見スルニ若シモナリ
 六機關ノ防熱裝置ハ一層確實ナルモノヲ希望ス
 理由 同型艦ニシテ重量表ニヨリハ同一箇所ニ寄ル
 外衣ノ重量甚シク相違スルモノアリ又表面不規
 則ノ部分例ハ伸縮接手等ニ石綿蒲團ノ手毛
 ノ若クハ外衣ノ接目不良ニシテ裸ノ儘一部露出ス

(英農部紙乙)

毛アリ又製造方法書ニヨリハ核機室祭停生ノ
 下部ニ蒸氣管ノアル處ハ床板ノ下面ニ防熱法
 シタヘキ規定ナルモ之ヲ實施セザルモ多シ尙出
 束得レハ核機室天井ニアル数本ノ蒸氣主管ハ
 纏メテ帆布ヲ以テ傳熱ヲ防ク如クスレハ室内温
 度ヲ下降シ得ルコト明白ナルヘシ但シ此ノ場合相
 當量ノ帆布ヲ要スルハ勿論ナリ(左圖參照)



(美濃野紙乙)

七、将東艦船ニ採用セシムル電氣兵器ニ徹底的研究
 命試驗ヲ施行シタルモノタルヲ主義トシ又試驗的
 採用ノモノハ同時ニ陸上ニ於テ充分ナルトライテスト
 ヲ實行シ熟シ冷サレ内ニ解決スルコト

(美濃野紙乙)

海

軍

附議希望事項

呉鎮守府

(美濃野紙乙)

入渠艦船ニ終夜電流供給ノ件(二、八、五官房ニハ二六)
 (會計法規下卷一七九頁參照)ノ一部ヲ改正シ終夜
 電流供給シ得ルコトニ改正

右ノ規程ニテハ一、夜十一時ヨリ終員起十五分前迄ハ電流
 ノ供給ナク殊ニ入渠中ニアリテハ當直員ノ交通等ニ危
 険ニシキ常夜燈ノミニテモ終夜魚燈ノ必要切ナルニ付ヤ
 電流量ノ制限ヲ今少シク嚴ニスルモ終夜供給ノコトニ
 改正ヲ希望ス

(終)

海軍

海軍

附議事項

軍艦那智

一万吨巡洋艦ニアル工作料ヲ新設スルヲ要ス
戰時注排水作業、艦内工作ニ當リ機關長又ハ補機、隊長
力其指揮所ヲ離ルコト一万吨級巡洋艦ニアルハ困難事ナリ

機關長會議附議希望事項

軍艦阿武隈

一 船体機關ノ定例検査ヲ施行スヘキ艦ハ第三豫備艦ニ編入十分ノ
定員ヲ配スルコト

(理由) 豫備艦貼規則ニモ定例検査施行ノ艦船ハ寧ロ第三條第
二項ニ該當シ第三豫備艦ニ編入セシヘキナリ、定例検査準備並ニ
復旧作業ノ全部ハ乗員ノ手ヲ以テセサルベカラス又其他一般の保存
整備作業教育訓練等ヲ加味シ考フル時ハ十分ノ定員ヲ以テシ
テ到底充分ノ任務達成不可能ナルコト、昨年度軍艦鬼怒ノ実例
及本艦ノ現状ニ鑑ミ明白ナリ

昭和三年内令第十三號ヲ以テ第三豫備艦ニシテ機關定例検査ヲ
施行スルハ機關員ニ限り十分ノ定員ヲ配スルコトヲ得ハ如ク規定
シアルモ斯ル第三次的ノ規定ヲ一般的ニ人員不足ノ今日到底実
現不可能ナリ

ニ大正九年五月經豫第三六號ニ依ル勞働手當配付予算内給付
 令第五十二條及第五十三條ニ依リ支給スル手當金ノ豫備艦ニ對ス
 額ヲシテ在役艦ト同額トナスコト

(理由) 船体機關定例検査施行ニ伴テ現下予備艦船ニ於
 テ勞働繁劇程度ハ却テ在役艦ト上ニ出スモヤリ特ニ人員不足セル
 機關員ニ於テ然リトス然ルニ之ニ對スル手當金ノ配付額在
 役所ノ定員一人當リ百七厘ニ對テ予備艦ニ於テハ僅ニ三厘ナリ故ニ減
 定員殊ニ十分ノ五定員等ニ豫備艦ニ於テハ手當豫算額ハ在役艦
 ノ約五分ノ一ニ減シ到底給付令規定ノ趣旨ニ添フコト能ハス
 減員ニ應スル豫算ノ減少ハ已ムヲ得ストスモ豫備艦船任務ノ現状
 ニ照シ一人當リノ金額ヲ在役艦ニ比シ半額以下スルハ其ノ理由ヲ察
 見スルニ若シムモノナリ

附議希望事項 吳海軍艦船部

軍務局所掌

(一) 湿度計ヲ技術研究所ニ於テ研究セシメラレタレ

(理由) 湿度ハ船体缶、電機、火藥、光學、兵器、糧食、衛生等ニ重大ナル關係アルモ現用、砲術科ノ湿度計ハ鈍感ニテ不適ナルニ付キ

(理由) 現用湿度計ハ蒸溜水ノ塩分ノ測定スルニ不適當ニシテ電灯式ノモノモ塩分小ナル場合ニハ測定不可能ニ付キ

(三) 海軍造形材料試験規格第十六條ノ(五)ニアル保存法ヲ一層確實ナラシムルコト

(理由) 新造艦ニシテ就役後僅一々年位経過シタル艦本

海軍

缶ノ管端ニ近キ部分(管ノ部端)が突蝕ヲ生レ
タルモノアルハ主トシテ前記ノ保存法不確實ト認め
ラルベキニ付キ

(四) 機関ノ防熱装置ハ一層確實ナルモノヲ希望ス

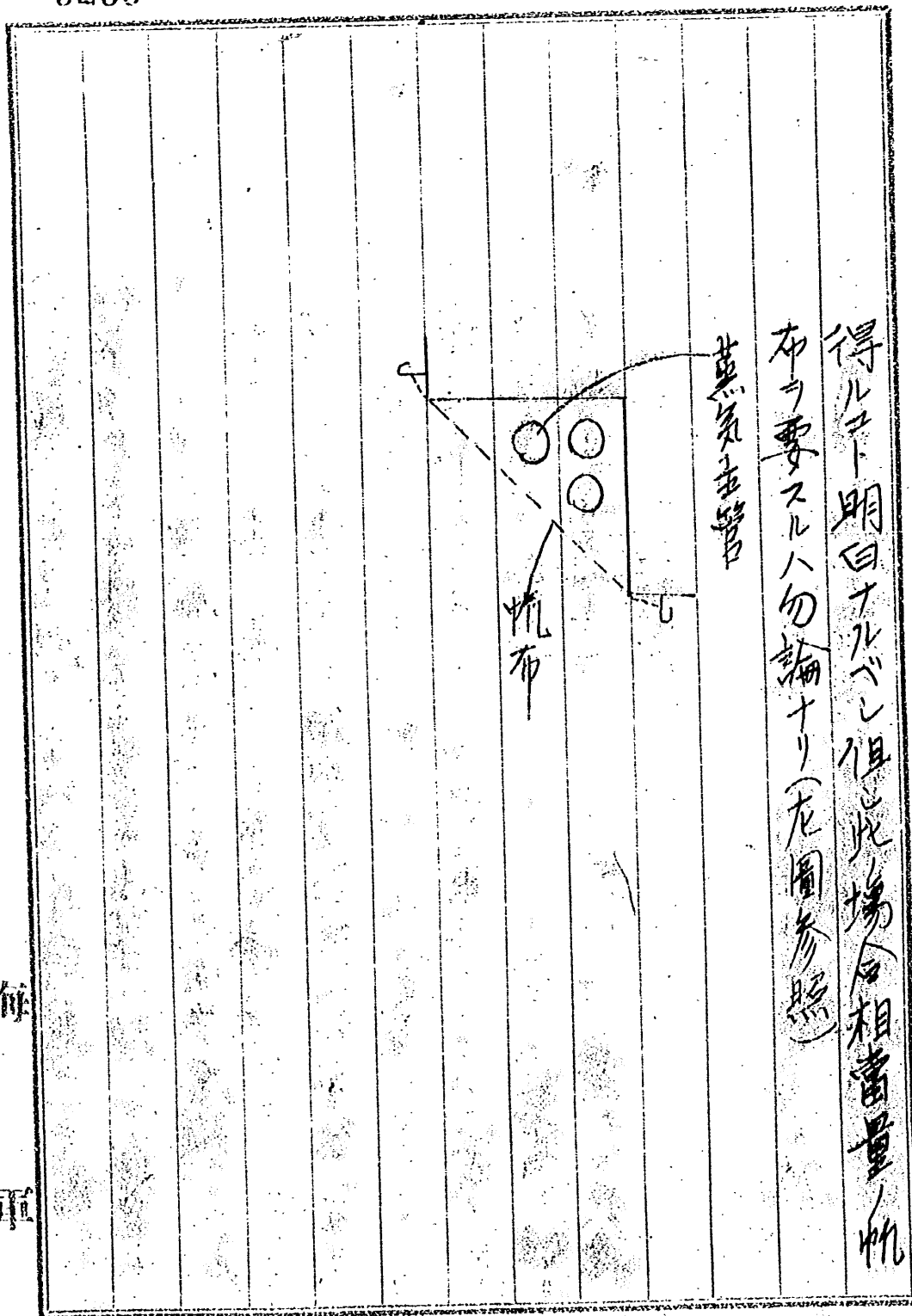
(理由) 同型艦ニシテ重量表ニヨレハ同一箇所ニ對スル外衣
ノ重量甚レリ相違スルモノアリ又表面不規則ノ部
分例ハ伸縮接手等ニ石綿蒲団ノナキモノ若クハ
外衣ノ接目不良ニシテ裸体一部露出セルモノアリ
又製造方法書ニヨレバ機械室發停座ノ下部ニ蒸
氣管ノアル處ハ床板ノ下面ニ防熱法ヲナスヲ規
定ナルモノヲ實施セザルモノ多シ尙出來得レバ機
械室天井ニアル敷板ノ蒸氣管ハ纏メテ帆布ヲ
以テ傳熱ヲ防グ如クスレバ室ノ溫度ヲ下降シ

(美濃江紙乙)

海

軍

海軍



海 軍

機關長會議附議希望事項 軍艦狀態

一、丙火機用的小型三次電池及魚燈裝置裝備シ要ス

(理由) 丙火機内火機(ラジエーター)燈裝置シ夜間起動の際に稍モ火

氣爲火災起ス虞アリ現過般小火起シタル實例アリ

依リ現在、應急用トシテ通信用豫備電池シ裝備シ災害

對策ヲ講シ居ル狀ナリ而シテ本件裝備ヲ必要トスルハ須

知事柄ニテ大正四年度艦隊附屬船ハ裝備シタル現

狀ナリ以テ本艦ニモ裝備スルヲ切望スル次第ナリ

二、兵員購所ニ發電機停止後点燈出来得ル様点灯裝置設備

必要ト認ム

(理由) 本艦如キ豫備艦ニテ燃料豫算ノ關係上終夜灯不可

能ナシ主計兵ハ其任務遂行上午前二時半ヨリ其業務

ニ取掛ルヲ要シ一般点燈ハ總員起シ十五分前ナリ此間

海軍

冬期ニ於テ約三時間燭火ヲ点シ極メテ暗黒ノ照明下ニ約
千人ノ購作業ニ從事セラルハ其ノ現状ナリ彼等ノ勞苦並ニ衛
生上ノ点ヲ考慮シ此ノ燭火代フルニ急ヲ裝置ヲ設ルヲ必要ト
認ム而シテ其ノ裝備ニ就テハ次如クハ經費少クシテ目的
ヲ達スヘシト思考ス

(一) 所要燈數

水櫃型ニテ 二個

(二) 燈光ノ形式

一燈射擊燈塔器用ノ如ク小型電球
ヲ用フニ耐シ自働電リトイフ如ク反射鏡
ヲ附シ照明ヲ大ニスルコト

(三) 電 源

水櫃ニテ電池増設不可能ナル時ニ機關科
通信用型ニテ電池ヨリ導線スルコト
又電池室ノ購所ノ附近示型モノケルニテ
ヲ設クルコト

(四) 所要切斷器

(五) 本電燈發電機點燈中、一切使用ヲ禁スルモノ

卷

海軍

0860

佐
附議希望事項

1860

承り置
研究費
研究費
研究費
研究費

特務艦敷島

機関少佐 木村 祐

附議希望事項(軍務局所掌)

一各鎮守府ニ研究費ヲ配布セラレタシ

理由

目下、處ニテ研究費ナキタメ考案アルモ製作試
行ノ材料スラ供給ノ道ナキニツキ

海 軍

佐世保海軍艦艇部

海軍機關中佐 江本

誠

機關長會議諮問附議希望事項

意見

一 罐圍ニ取外容易ニシテ充分氣密ヲ保持シ而モ在管外部掃除ヲ至便ナラシムル潛孔蓋ヲ裝備スルコト

理由 艦艇視察ニヨリ多數艦艇ノ在外部ヲ検査スルニ罐管外部側數列ノ下部水「ロム」附根ヨリ二三吋乃至一吸ニ至リ管外部腐蝕甚シノ殊ニ過熱管ニ更ニ甚シキヲ見ルトハ時ニ管外部ニ煤灰ノ濕氣ヲ含ミセメント狀ニ固着シ離脱困難ナルモノヲ見受クルハ罐ノ效率並壽命ニ多大ノ悪影響ヲ来スト明カナリ之レカ原因ヲ調査スルニ一方煙突覆ノ不完全ナルモノヲ使用シ雨水ノ滴下ト在外部掃除ニ際シ圖

海

軍

一 裝備シタル潜孔蓋ノ数又ハ大キサノ過^ハニヨリ充分ナル掃除ヲ
 施行スルコト困難ナル爲徹底的手入ヲ行ハス時日ヲ経過スルニ從
 ヒ管外部ニ固着或ハ腐蝕ヲ生セシムルニ至ル本年艦隊ヨリ
 予備艦トナリタル駆逐艦ニ於テ是外部掃除ノ最完全ニ施
 行サレ居ルモノヲ實見セリ依^テ其ノ掃除方法ヲ用^クニ氣吹
 掃除並特殊掃除矢ヲ作製シ乗員が多ク大ノ勞力ヲ傾注シ
 常ニ隅々ヲ徹底的ニ掃除ヲ勵行スルハ各自ノ職責アリトノ
 殆ント習慣性ヲ以テセリトノコトナリ斯クハ如キハ他艦ノ模範ト
 スヘク推薦シテ各艦ニ斯ノ如キ風習ヲ普及セシムルハ勿論ナレトモ
 蘇^ヲ掃除困難ナル点ヲ考^ヘバ掃除ヲ簡單ニ施行セラルヘキ
 手段ヲ講^シ以テ勞力ノ消耗ヲ防止スルモノ策ナリ故ニ此ニ處スル
 ニ在^リ團ニ取外容易ニテ充分ノ氣密ヲ保^テ得ル潜孔蓋ノ数ヲ
 増加スルカ大キサヲ改^メルカニヨリ管ノ付根掃除ヲ完全ナラシムル

海

軍

0984

ヲ得策ト認ム

海軍

誠

機關長會議諮問附議希望事項

竟見

二重油噴燃器噴霧試驗裝置ヲ各艦ニ於テ容易ニ出来得ル様設
備スルコト

理由重油噴燃器、整否か汽、釀力燃料經濟並ニ炭煙焚火ニ大
ニ影響有ラ及ホスコトハ言フ俟タス其ノ重ナルモノニテ口金ノ不良ヲ

第一トス

口金ノ噴霧試驗ノ教範ニ示ス處アルモ具體的方法ナキニテ昨年
當艦取部ニテ噴霧試驗設備並方法ニ關スル參考資料ヲ各
艦ニ配付セラルモ噴霧圧力ヲ作ルベキ裝置ナク多ク正確ヲ
期シ難ク從テ其ノ勵行ハ不満足ノモノアリ依テ左記ノ如

ノ設備ヲ施スコト必要ナリ

一補助給水唧筒出口圧力計元嘴ヲニ枚トシ一方、常時圧力計ニ
通セシメ一方、噴霧試験ヲ施行スル際水圧管取付用トス
更ニ左記要具ヲ必要トス

一試験用導管

一噴燃器取付台並御立鉸（鍍金セルモノ）

一角度試験鉸

海

軍

機務部
提出

4860

佐世保海軍艦艇部

海軍機關中佐 江本 誠

機關長會議諮問附議希望事項

意見

一 機關附屬物標準表(甲)ニ依ル「アセチレン」熔接器ノ供給實施ヲ希望ス
理由

主力艦及潜水母艦ニハ該熔接器ヲ供給サルモ其ノ他輕巡等ニハ
就役期間ノミ工廠ヨリ貸與サレ豫備艦ニハ貸與サレ居ラス近時熔
接工業ノ進歩奈辰ト共ニ其ノ使用範圍廣ク艦内工業ノ利用
高調セラルル今日艦内工業能率増進上ニ備タル輕巡級ハ其
ニ供給サル様切望ス

ニ左記物品ヲ需品又ハ兵器消耗品トシテ定額ノ制定ヲ希望ス
「ソウニス」絶縁塗料

海

軍

「ワセリン」

「ワニス」絶縁塗料、昨年九月本府在籍艦艇へ研究ノ為軍需部ヨリ供給セラレ本年二月迄ニシテ試用實驗成績ヲ調査ス
コトナリ目下成績未到着ノモノアリテ全部ノ成績ニアサレモ
大体ニ於テ濕氣多キ室内ノ糸電機電動機等ニ用ヒラレ效果
大ナルモノアレテ認めタルニ付各艦ニ供給セラレムコトヲ望ム

機園科ニ於テ整流子清拭或ハ二次電器接續螺釘塗布用ト
シテ「ワセリン」ハ重要缺ク可ラサルモノナルニ拘ラス定額ナキ為病
室ヨリ介與ヲ受ル次第ニテ不便甚ナカラズ兵器消耗品トシテ
定額ヲ設定セラレムコトヲ望ム

海

軍

機関長會議附議希望事項

佐世保海兵團

一機関兵採用ハ徵兵シ極減シ出来得共志願兵シ増加スル手段ヲ
採ルヲ要ス

(理由) 志願兵ハ所要員數ニ對シ志願者數近年四倍以上ニシテ
採用人員ハ素質至ニ普通學素養體格ニ於テモ一般ニ
優秀ナルモノヲ選拔シ得ルモ徵兵ニ至リテハ左表ニ示ス如ク殊ニ
機関兵ニ採用モハ工業關係者船員下層勞働者比較的
多ク素質甚ダシク低劣ナル者相當ニ多ク此後益々複雑
精妙ナル機関兵器ヲ取扱者トシテ教育訓練シ行ヒ大事ヲ
承ケルニ適シカラス内容充實見地ヨリ見ルモ徵兵シ避ケ極
力志願兵ヲ以テ充實スルヲ適當ノ策ナリト認ム

本年六月入團ノ新兵ハ志願兵ニ徵兵シ混ズルコトナリ居ルモ下士

官任用等見地ヨリ徴兵シ増スニ理アルモ教育訓練見地ヨリ
考ルニ機關科員実カク低下セシメ素因シマスモニテ多數
志願者アル今日強ク徴兵シ増加スル深ク考慮シ要スルモト認ム
昭和三年十月入團徴兵七九〇名中特ニ素質低劣ナルモノ左
記ノ如シ

(一) 本人ノ内ニ高等卒業尋常卒業等ノ者アルモ素養検査結果
普通學程度特底ク尋常ニ三年程度ニシテ機關術其他ノ
教科書理解困難ナル者七五名

(二) 記憶力低劣理解極ク悪ク又ハ甚シク常識シタキ低能ナリト
認ム者四二名

(三) 入團時既ニ痼疾ヲ有シ体力特ニ虚弱ニシテ入院入庫多ク
普通學修業困難ナル者三一名

兵種 農業 工業 船員 看護者 記 事

T-660

三年志願兵	三年徵兵
水兵 機關兵	水兵 機關兵
五八〇 五七三	四二七 一九八
三三三 七三	五七 三三九
一〇〇 二四	七四 二〇二
二二 一六	六八 一五二
	總數三對二百分比上

昭和三年度志願兵募集成績表

機關兵	水兵	兵種
七五〇	九八〇	負數
三三〇八	二五七三	所要員數
一一六一	九九九	志願者數
		合格者數

二、機關長會議十月頃上元事

毎年五月初旬機關長會議開催二月上旬頃議題提示三月初旬頃迄各艦船部隊ヨリ之ヲ答申シ司令部提出司令部於テ四月初旬迄綜合統一取捨撰擇シ之ヲ本省提出セラルル例ナルモ十二月移動後休暇正月ノ休業多キ月シ過ヤリル

機ニアラス勢と從來經驗研究ノ跡ヲ調ベテ其ノ結果申シ作ル
 カ常ニテ日本海軍機關科關スル重要ナル問題ヲ解決スル資
 料トシテ誠ニ貧弱ナルヲ自覺セラル得ス故ニ早ニ會議
 問題ニシテ問題~~海~~答申ニ終ナル如ク又會議ノ成果ヲシテ一
 夜作りノ議論ノ結果ニ非ズシテ眞ニ其決議ニヨリ日本海軍機
 關科指導ノ指針ヲラシムル權威ヲ有セシムル爲ニ本年度初頭ニ
 問題ヲ提示シ十月初旬頃會議ヲ開キ此間慎重研究練成
 ノ時期ヲ與ヘラレシコトヲ切望ス

三特務士官ニ正装ヲ設クルヲ要ス

官制改正以來特務士官ヨリ多數ノ分隊長ヲ出シ居ル今自分
 隊士ニ中少尉配置セラル場合モアリ特務士官分隊長ナルが故ニ
 正装ヲ有サルハ部下ニ對スル威嚴モ關シ下士官兵ノ指導ヲ教育
 上ニモ影響アリ高等官タル體面上ヨ見ルモ正装ヲ制定スルハ

至當ト認ム

觀

近來此書特務士官准士官間ニ漸ク多ク經濟通念ヲ超越セル
主張ヲ聞ク爲●政者ノ率先一考セラルベキ問題ナリト認ム

四勤務録シルより式トシ執務資料トシテ各人ニ所有セシムル
如ク改正スルコト

現在、勤務録ハ之ガ活用ノ方面ニ欠ケル所アリ即チ一冊子トナリ居ル
爲多年ニ亘リ同一事項ニ對スル研究參考事項ヲ集録整理
スルニ適セス又所轄長其他ノ査閲ノ爲不得已記註スルモノ多ク
從テ時々思付キシ順序モ分類モナリ錯雜混淆シテ記註シ人ニ
見セガ爲ノ記事ナク冗長ニ流レ紙數ヲ塞ヤ之ヲ以テ執務作業
上ノ參考又ハ自己ノ研究資料トシ識見ヲ養フ材料トスルニ足ラヌ
古キ勤務録ハ又省ミサレモ此旨然リ實狀此ノ如クシテハ勤務
録記註ノ主旨ニ反シ又勞力ト時間ヲ費シテ記註セルモノモ實際治

用性ニ及ンシテ其効用ヲ欠クシテルモノニ式トシテ多年ノ研究
 參考事項ヲ執務資料トシテ一冊ニ集メ整理得ル如クセバ只ニ
 大耐~~紙~~迄ニ止ラズ永ク座右指針トシテ無ニ寶錄タルコト得ベシ
 速ニ改正シ要スルモノト認ム

佐世保防備隊

海軍機關中佐 八木正朝

附議希望事項

軍務局關係

一 佐世保防備隊内火艇二隻配屬セシノラレタシ

本隊ハ佐世保鎮守府内火機關講習ヲ擔當ス又第廿一

廿二廿三廿四廿五潜水隊イ第六十三口第三王潜水艇附屬ス

然ルニ交通艇ハ僅々五隻ニシテ彼ノ舞鶴防備隊ト同教

教育上ノ見地ヨリ又交通上ノ見地ヨリ輕巡型内火艇及駆

逐艦型内火艇各一隻宛至急配屬ヲ望ム

二 河用砲艦及駆逐艦乗組員ノ職名ヲ改正セラレタシ

機關長職務執行者ニ對シテハ機關長ト改稱セラレタシ蓋シ

職務ニ對シ名稱ヲ附與スルハ人事行政ノ名實伴フ所以ナル

ノミナラス一重ノ豫算ヲモ要セム

ふりり
ふりり

三 特務士官ノ配員ニ関スル件

毎年英國及米國ニ各一名宛交代派遣リコトニ御願ス

四 海軍機關學校廢止ノコト

海軍機關學校ヲ廢止シモテ電氣學校ニ轉化シ海軍ニ於ケル
將校教育ヲ統一スルコトニ進ムハ能率増進上最適好ノコトナリト
信ズ而シテ普通學及關聯事項ノ研究ハ普通科學生及
高等科學生教程ヲ向上セシムルコトニ依テ其缺點ヲ補ヘハ
更ニ好結果ヲ得可レト信ズ

昭和四年度機關長會議附議希望事項

舞鶴要港部

考案

昭和四年度機關長會議附議希望事項

舞鶴要港部

一、舞鶴防備隊ニ小型ドラバル式油清淨器、裝備ヲ要ス
理由 當部所屬潜水艦ハ現在、任務ヲ年一回ハ流シタリ
内、油ヲ取換フルヲ要ス 此際放棄スル油量ハ約一〇〇〇ガ
リ又此外海水等ヲ混入シタル際放棄スル油量ハ相當多
額ニ達スルモノト認ム 依テ當部要港部ニ潜水艦ノ配
ル、以上油清淨器ノ裝備ヲ必要ト認ム
尚多摩及第二十八驅逐隊ニ於テモ利用シ得

二潜水艦ニ次電池ノ充電裝置ヲ防備隊ニ設クルヲ要ス

理由
主機故障，
際他，
潛水艦
ニル
二次電池充電

不能ナル當要港部ニ於テハ是非共本裝置必要

銀公

尚呂號二十五潛水艦、二次電池衰朽、現狀ニ兆シ二次

電池一部、衰朽ヲ恢復スルヲ單獨課電ノ裝置ヲ必

要
卜
認
公

防衛隊・新田能修・経主税務所電部、
装束の調査及命令指示等
監査役会に提出する

✓